

練馬稲門会の皆様

釣り愛好会 新任部長 松浦 康夫

釣り愛好会の部長を引き継がせて頂くに際しまして

1. 会のモットーと運営方針

早稲田大学にいくつか存在する釣りサークル中、最も歴史と伝統のある釣りの会である「早大釣の会」が、学生の会として発足してから今年が丁度60周年。その創部の精神である

釣りを通し、魚と出会い（自然と対話し、自然を愛し）
人と出会い（新たな知己を得、親睦を深め）
健康と出会う（健全な心身を養う）

を踏襲しつつ、練稲・釣り愛好会のモットーと運営方針を作ってみました。

- (1) **安全第一**
- (2) **楽しく和気藹々**しかし、卑しくも早稲田大学の名を冠する釣り愛好会ですから、世の釣り人の範たるべく
- (3) **釣りマナーには厳しく**
- (4) **釣りに対し、自ら旺盛な探求心と向上心を持ち**
- (5) **他人に甘え頼らず、自立してかつ、新人を指導できるような釣り人を育成する。**



2. 会のルール

練稲・釣り愛好会の諸先輩方が築いてこられた、会の運営方針を明文化するとともに、私の釣りポリシーや釣りへの拘りを加味して纏めてみました。

- (1) **徒に釣果を競わず、乱獲を慎む。**
 - ①賭け釣り厳禁。 こういう行為は、乱獲を招き、会の品位を貶めるものです。
 - ②釣り競技会ではないので、順位を競うこともしないし、賞品なども出さない。
- (2) **無用な殺生はしないこと。**

釣りとは、生き物の命を弄ぶことで成り立つ道楽であることを肝に銘じて行動する。

 - ①釣っても食べないのなら、必ず生かしたままリリースする。
 - ②外道の魚も命あるものとして、食べられない魚も大事にリリースする。
外道が釣れたとって、地面に叩きつけたりするのは、とても下品で野蛮な行為です。
- (3) **釣り人側が、圧倒的に魚より有利となるような釣りはしない。**
 - ①電動リールは使わない（使うのは手動の道具のみとし、動力機械は使わない）。
 - ②釣りとは、人と魚との1対1の勝負。 他人の助けを借りず、全て自力で行なう。
 - ③コマセ釣りや、多くの釣を付ける釣りは、なるべく行なわない。
- (4) **社会規範を遵守し、釣りマナーを守り、品格ある釣りを心掛ける。**
 - ①早稲田マンの誇りを持った品格ある釣り人として、釣り場でのマナーを遵守する。
 - ②釣り場を汚さない。 海や川へのタバコやゴミのポイ捨て厳禁。 ゴミは持ち帰る。
 - ③違法密放流種であるブラックバスやブルーギル等の釣りは行なわない。

(5) 安全第一、健康第一

①大きな危険を伴う釣り場への釣行はしない。悪天候には逆らわず、無理はしない。

3. 新部長としての方針（釣り愛好会の部長をお引き受けした条件）

部長が行なうのは釣行前の段取りだけで、釣り場に着いたら、私は自分の釣りに没頭してしまうので、釣り場に於いては、懇切な指導やお世話は出来ません。全くの初心者に対しては、初回だけ手伝って差し上げますが、それは、お世話して差し上げるという意味ではなく、やり方の手本として1回だけは行なって見せる主旨です。その1回で覚えて頂き、その後は、自分の世話をご自分で行なって頂きます。

そうしないと、いつまで経っても初心者の域を脱せず、会のお客さんとなってしまいます。そして、「技術は盗め」です。向上心と探究心を持って、仕掛け作りなどを研究してください。基本は、その日に使った仕掛け等を持ち帰り、家でじっくり研究することです。また、必要に応じて会議室などで、糸や釣の結び方や、仕掛け作りの講習会を開きます。

4. 釣行プラン

(1) 例会は、年間6回 主として東京湾の船釣りを企画します。

開催日時は、潮回りと天候を重視し、釣れる日並みの釣行とします。

メンバー各位の都合を聞いての日時調整は致しません。

その代わりに、従前よりも大幅に例会の開催数を増やしますので、ご都合がつく日程の例会釣行に参加して頂きます。

※以下は試案で、釣りモノは、会員の希望や、その年々の釣況に応じて変えていきます。

春	4～5月頃	イシモチと深場のシロギス（金沢八景 黒川丸）
初夏	GW明けから6月下旬頃	浅場のシロギスとマゴチ（鶴見 新明丸）
夏	7月初～8月上旬	カサゴ（金沢八景 黒川丸、または、浦賀 みのる丸）
秋	9月初～10月下旬	アジ、サバ（金沢八景 黒川丸）
初冬	11月	イシモチ（金沢八景 黒川丸）
冬	12月上旬	落ちハゼ（鶴見 新明丸）

(2) 船釣りは平日の釣行です

- ・例会の釣行日は、仕立船料金の安い平日とし、釣り座決めは公平にクジ曳きとします。
- ・仕立て船が原則ですが、参加者が5人未満の場合は乗り合い船とします。
- ・船宿は、交通アクセスが良く、最寄駅から徒歩でも行ける場所にある船宿を考えています。
- ・船宿により、得意とする釣りモノに違いがあるので、釣りモノによって船宿を使い分けます。

(3) オフ会の企画（例会ではなく、会員同士の個人釣行です）

私は、個人的に月に2回～4回は釣りに行きます。

希望者には、予定日をメールでお知らせしますので、都合が合えばご同行ください。

車での釣行で、交通費は割り勘です。同乗可能な人数は、私+3名まで。

私が経験済みで、ご案内できる釣りもの

- ・東京湾の楽な船釣り・・・シロギス、カレイ、アジ、イシモチ、カサゴ、クロメバル、マダコ、カワハギ、マゴチ、落ちハゼ
- ・外房～茨城、真鶴～伊豆の船釣り・・・ヒラメ、ホウボウ、根魚五目、イサキ、アマダイ、オニカサゴ、アイナメ、大型カレイ、沖メバル

- ・清流や小川での小物釣り・・・ハヤ (ウグイ)、ヤマベ (オコリ)、マブナ、タナゴ、テナガエビ、
- ・湖沼のボート釣り・・・ワカサギ、芦ノ湖などでのニジマス、
- ・溪流釣り (危険の少ない溪)・・・イワナ、ヤマメ、ニジマス

5. 釣行以外に、希望者があれば実施したい企画

- (1) 仕掛け作りの講習会
- (2) 釣り人料理の研究会、魚の捌き方講習会、我が家の庭には自作の大型燻製装置もあります
- (3) ご家族やお孫さん連れで、釣りを兼ねた野外BBQの催し
 - ・河口の海岸で、ハゼの天麩羅
 - ・清流の河原で、ヤマベの唐揚げ
 - ・河口近くの川辺で、テナガエビの素揚げ
 - ・溪流の管理釣り場で、ニジマスの塩焼
 - ・小溪流で鰻(カヅカ)を捕って (釣り、手網、ヤス突き)、鰻の唐揚げと骨酒づくり
- (4) 山菜採りなどの野遊び

6. 自己紹介

略 歴

- ・昭和23年7月生まれ 出身地は東京 現在68歳
- ・都立大泉高等学校から東京農工大学農学部に進学するも、2年で中退し早稲田大学に入り直す。
- ・昭和48年 政治経済学部 経済学科 卒
- ・宝幸水産株式会社入社 財務経理部と情報システム部を歴任
- ・41歳の折、請われてシステムエンジニアとして三菱電機株式会社に転職し、定年まで勤務。

釣り経歴

- ・小学校時代より釣り好きだった父より是政の多摩川でハヤ、ヤマベ釣りの手ほどきを受け、また、ハゼ釣りや真鮒釣りにも父に同行して手ほどきを受ける。
- ・中学高校時代には、父からヘラ鮒釣りの手ほどきを受ける。
- ・高校時代、山岳部に在籍したこともあり、独学でヤマメ釣りを覚える。
- ・早大入学と同時に「早稲田大学釣の会」入部。 溪流パートチーフを務め、中部山岳地方の南アルプスや、東北地方の飯豊、朝日連峰、奥只見などを主体にイワナ釣りに没頭する。また、「釣の会」の活動とは別に、個人的に東京近県のイワナ・ヤマメ釣りにも精を出す。現在も早稲田大学釣の会OB会員として、OB仲間と年間数回の釣行を行なっている。
- ・就職後は会社の釣り同好会にて海釣りを覚える。
- ・また、イワナ・ヤマメ釣りを行ない続けるとともに、釣り具の自作も行なってきた。
- ・対象魚は溪流釣りや清流の釣りが得意で、海釣りは素人に毛の生えた程度。
- ・定年退職後も、イワナ・ヤマメ釣りに打ち込み、北海道や佐渡島まで溪流釣りに行く。
- ・現在は、自宅にて鰻工房 (<http://kazika-koubou.at.webry.info/>) を開設し、釣具や釣り竿を主体とした請負製作と、釣り具の製作指導を行なっている。
- ・ここ数年は、腰を痛めていることから溪流釣りからは遠ざかり、タナゴ、ハゼ、テナガエビなど江戸前の粹な釣りと、伝統釣り具への関心が高まっており、鰻工房との関連もあって、タナゴ和竿やハゼ和竿の手作り仲間数名と、ハゼ・タナゴ釣りを行なっている。

✍